

令和5年度 岐阜県現代陶芸美術館協議会 議事要旨

- 日時:令和5年6月28日(水) 13時30分～15時00分
- 場所:岐阜県現代陶芸美術館 プロジェクトルーム
- 出席者:
 - 【委員】安藤(工)会長、有賀委員、安藤(貴)委員、鈴木委員、長谷川委員、松原委員、田代委員、細野委員、大瀧委員
(欠席:加藤委員、高木委員、箕浦委員、安藤(雅)委員、瀬古委員)
 - 【県】石崎館長、久野副館長兼総務部長、小栗学芸部長、長瀬課長補佐、飛弾課長補佐、花井係長、岡田課長補佐、立花係長、林主任、牧野主事

議事1:令和4年度 事業報告について

(有賀委員) 観覧者数については、年度ごとに目標数を設定しているのですか。

(長瀬課長補佐) 年度全体での目標数は設定していませんが、展覧会ごとに過去の展覧会の実績を参考にしながら、観覧者数を想定しています。

(有賀委員) 美術館でいう成功とは何でしょうか。観覧者数が多いことが成功なのでしょうか。また、観覧者数が多いことが一番なのでしょうか。

(石崎館長) 美術館でいう成功とは、様々な観点があり、委員の皆様にご意見を頂きたいところです。

観覧者数については、もちろん気になる場所ではありますが、数字だけでなく、いかに来館者数を増やすか、陶芸を愛好する気持ちを熟成させることが大切です。例えば、愛のヴィクトリアン・ジュエリー展では女性客が大半を占めましたが、いかに男性客にも来ていただくか等、展覧会の傾向を分かれば、それを分析し、今後の展覧会に生かすことができます。

(有賀委員) 平成30年度の観覧者数が突出しています。(例年の2倍) 人気のある展覧会を開催すれば、観覧者数は伸びる。お客様を呼べる展覧会を増やすのも良い方法ではないか。

また、東濃以外の地域では現代陶芸美術館を知らない。他地域でもっとPR活動を広げてはどうか。

議事2: 令和5年度 事業計画について

意見なし

議事3: 美術館の運営についての提言

(鈴木委員) 令和4年度の展覧会は、洋のものから超絶技巧等バランスの良い展覧会でした。

多治見は他にも訪れたいところがあるので時間が足りない。まずは、美術館へ一番に来ていただけるとよい。そのためにも今後も良い展覧会開催を期待します。

(安藤委員) ロマンティック・プログレス展は感性を揺さぶられました。

愛のヴィクトリアン・ジュエリー展は普段では目にしないジュエリーに感動しました。衣装等も展示してありましたが、もっと展示点数があれば、見応えががであったのではないか。また、当時も写真もあれば、ジュエリー・衣装によりインパクトを与えたのではないか。

超絶技巧、未来へ！展については、毎回感動し、次回も期待させるものでした。

様々なジャンルが展示されるようになり、それぞれが刺激しあい、幅を広げていただけることにより、来館される方にもっと楽しんでいただける。

(長谷川委員) 議事1での観覧者数についての話に興味をもちましたが、私も年間20～50の展覧会を見ますが、人を呼べる展覧会だけになってしまうと同一ような展覧会となってしまうので、それは面白くなくなってしまいます。

(大瀧委員) 学校へ年間61回の出張授業を実施していただき大変ありがた

い。なお、小学校への出張授業が多いようですが、中学校での実施もお願いしたい。また、実践相談・指導助言についても、現在は、中学校の美術の先生が少ない状況です。中学校への認知、アウトリーチをもっとアピールしていただきたい。

(細野委員) 来年、13回目の国際陶磁器フェスティバルが開催されます。毎回、グランプリや金賞作品を美術館へ収蔵していますが、なかなか日の目を見ないことを懸念していましたが、今年、美術館入口前にも作品を展示していただきました。

今後も定期的に作品を展示することにより、より多くの方に作品を見ていただき、国際陶磁器フェスティバルの機運を高めていきたい。

(田代委員) 超絶技巧へ、未来へ！展は（人気があり）観覧者数が増えるが、どこまでジャンルを広げるかも問題です。

ジャンルを広げるのは勿論良いが、展示の内容の深みを出せるかが問題です。例えば、地元の専門家を有志やボランティアとして、展示方法等に関わっていくのはどうでしょうか。専門家は、どこを見せると良いか等見せ方の提案情報を得ることができます。

(林主任) 例えば、アンファッションカレッジ（校長：安藤（貴）委員）の先生方と布を使用したワークショップの企画を検討しており、地元の専門家の意見を取り入れ、オリジナルの展示を深めていければよいと考えています。

(松原委員) 美術館は陶芸の拠点となる地域にあります。過去の産業陶磁器の展覧会も何度か観覧しました。美術館は国、県、市のサポートがあつてのものだと思います。したがって、公共の美術館は利益や観覧者数を増やすことなどに、あまり拘らなくてもよいのではないかと考えます。

出張授業は多治見市内の学校が多いですが、陶磁器産業は現在、多治見市より土岐市が盛んです。土岐市の小中学校での実施もお願いしたい。

(有賀委員) 議事1で観覧者数の全体での目標数は設定しないとのこととし

たが、一定程度増やすよう、各展覧会に目標数を設定したほうがよい。

(安藤会長) 皆さんの意見を今後の館の運営に活かして頂きたい。
これで議事を終了します。ありがとうございました。